



Title	東大阪市中保健所長坂井芳夫さんを訪ねて
Author(s)	森兼, 美智代
Citation	大阪公衆衛生. 1989, 56, p. 9-11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83677
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

インタビュー記

東大阪市中保健所長

坂井芳夫さん



これまでの経歴

森兼美智代 今日は東大阪市医監兼中保健所長におなりになった坂井先生にお話を伺いにきました。どうぞよろしくお願いします。

以前に高知県で開業されていたとお聞きしているのですが。

坂井芳夫 はい、外科が専門でした。

森兼 それではなぜ行政に進まれたのでしょうか。

坂井 昭和42年春に開業を辞めて2～3年のつもりで昭和34年に学位をいただいた恩師の大阪大学医学部法医学の松倉豊治教授（当時）の教室に入れていただきました。ちょうど教授が大阪府死因調査事務所（現在の大阪府監察医事務所で環境保健部医療対策課の所属）の所長も兼務しており、当時の衛生部長から保健所の医師が少ないので、監察医と兼務で保健所を手伝ってほしいという要望がありました。それで週1～2回、吹田保健所に勤務することになったのが行政とのかかわりの第一歩です。その当時、心身障害児の問題が社会的にも関心をもたれており、吹田保健所では現在の大阪府保健福祉医療監の江部高廣

先生が障害児の早期発見について取り組んでおられました。保健婦さんも在宅障害児の家庭訪問をしてその実態把握につとめており、私もその頃は素直でしたので（笑）保健婦に誘われてハイハイと訪問について行っていました。江部先生を中心にして障害児早期発見のための特別クリニックの開設や、1歳児、ついで5カ月児に対するアンケート調査等を経て、現在大阪府の保健所で実施している6カ月児のアンケート調査等にとりくんできました。

森兼 万国博覧会が開催されたときも吹田保健所におられたのですね。

坂井 昭和43年から保健予防課長をしておりましたので、その造成から関係していました。造成工事をされている方々の日本脳炎の予防注射等もやりました。あの頃の保健所は人の出入も多く、職員もはりきって自信をもって仕事をしており、大変活気がありました。

森兼 吹田保健所の次は初代の摂津支所長となられたわけですが、初代ということで特に印象に残っていることはありませんか。

坂井 摂津支所長は1年間だけでしたが、新しい事業の展開に取り組みました。妊婦教室の開始や子宮がん検診などはたいへん喜ばれました。特に印象深いのは、原爆二世の方々の健康診断を実施したことです。被爆者の家族の方々の要望と井上一成摂津市長（当時）の熱意で府下で始めてとりあげることができました。それと味生小学校での給食による集団食中毒事件です。約500人近い生徒が発病し学校の講堂や教室が臨時の病室になり、医師会の先生方と一晩中治療にあたりました。これらの対応のなかから摂津市役所のいろいろの方々と親しくなり、昭和56年に吹田保健所に戻ってきたときにこれらの方々が暖く迎えてくれました。

森兼 池田、四条畷保健所で新しい保健所の新設に関係されたときいておりますが。

坂井 池田保健所では箕面支所を、四条畷

保健所では大東保健所の新設にとりくみ、大東保健所は初代の所長をやらしていただきました。新しい箕面支所、大東保健所が無事に業務を開始し市民に気軽に利用していただいていることを肌を感じたときは本当に開設してよかったと今までの苦労もふっとんでしまいますね!!

森兼 昭和56年に再び吹田保健所長になりましたが、吹田保健所で実施されました国民健康づくり計画モデル事業とは、ひと口に言えばどんなものでしょうか。

坂井 農山村地区、県庁の所在地、工業都市、大都市ということで、全国5地区の一つに吹田市と摂津市が選ばれ5年間にわたって事業を展開してきました。吹田摂津地区は「大都市における今後の保健所のあり方」という課題でとりくみました。幸い両市を始め医師会等の医療関係団体、衛生婦人奉仕会吹田支部（吹田母子会）等の地域組織、大阪大学医学部公衆衛生学教室や国立循環器病センター等の専門病設の協力で「モデル事業」を模索してきました。

森兼 今後、大阪府の保健所が何をなすべきかということを考えられたのですね。

坂井 吹田・摂津市を始め北摂の各市は老人保健法の施行で、市が人的にも施設的にも見違えるほど充実し各種事業を展開していくなかで、府保健所のあり方を厳しく見つめてきました。そこでとりあげたのか、小規模事業所の従業者の健康管理の問題であり、思春期精神保健であり、痴呆性老人問題であり難病等の問題でした。

幸い吹田保健所は大阪府の保健所の若手医師の研修保健所になったもので、所長、両支所長、保健予防課長のほかに2、3名の若手医師がおり、それぞれの専門の分野で新しい事業にとりくんでくれました。また保健婦を始め、職員の方々が「モデル事業」の趣旨を理解してくれまして、日常業務の外に新しい事業にも積極的にとりくんでくれ、本当に感

謝をしております。

吹田保健所の新築

森兼 吹田保健所では、再び新築移転をやられたときいておりますが。

坂井 大東保健所で大阪府の保健所の新設は終了したときいておりましたので、吹田保健所で引きつづき移転新設に携われるとは夢にも思っていませんでした。幸い、吹田・摂津市選出府議会議員や、吹田市を始め関係者のなみなみならぬご努力と熱意で市民病院の跡地を提供していただき、それと「国民健康づくり計画モデル事業」も評価してもらい、これもプラスになって昨年12月に新しい保健所が開設されました。ガラス張りの建物で広く明るいエントランスホール、生涯学習の部屋、多目的使用の部屋等がつくられています。本年の2月から3月にかけて全国から30余か所の保健所の方々が、お見になりましたが、「保健所らしくない保健所」と言っていたいております。エントランスホールでは昼休みコンサートも定期的に開かれています。

森兼 新しい保健所に移られて半年たらずですが、政令市の保健所に行かれ保健所の印象はいかがですか。

坂井 4月から東大阪市の中保健所にまいりましたが、まあとにかく忙しいですね。東大阪市も政令市になって6年でまだまだ若いですが、老人保健法の保健事業を始め予防注射等本当に市民に密着した事業をやっており、職員もよくがんばっていますよ。老健法の保健事業を各校区でやっていますが、運送屋さんが来てトラックいっぱい机や椅子等を運んでおり、あれにはおどろきましたね。

幸い吹田保健所でいろいろの事業をやらしていただきましたので、東大阪市でも手をつけてみたいと思っており、楽しい毎日を送っています。市民の方々の要望が多様化していますので、いろいろの事業をとりあげないと

住民からソッポをむかれると思います。また今後は、地域の各団体との連携をもつと緊密にせねばならないと考えています。大阪府は、昨年春から22保健所に保健福祉推進室が設置し、保健・医療・福祉のネットワークづくりに積極的にとりくむための体制ができましたが、この経験を東大阪市でも利用させていただこうと思っています。

監察医として

森兼 ところで保健所の所長と監察医を兼えておられる方はめずらしいと思いますが、医学のことについてお聞かせ下さい。

坂井 大阪大学医学部のなかに大阪府監察医事務所があります。これは死体解剖保存法に基づいて大阪府が行っています。監察医業務は大阪市内が対象で、365日警察の方々と一緒に仕事をしています。年間約2000体の検索業務と、死因のわからないときには解剖も行っています。さすが大都市大阪です。いろいろの事例を経験しています。

森兼 監察医業務を通して、何か感想はありますか。

坂井 阪大の学部4年の学生研修で一緒に検案にまわっていますが、学生にも話をしますが亡くなられた現場で検案する訳ですので、「一人暮らしの方々が誰れに知られずに、物にまみれて亡くなっている現場こそが現実の生活である。大学病院に診察に来られる患者はきれいに身づくろいをしてくる事が多いので、それがその人の生活であると思わないように」と言っております。都会の片隅で一人でささやかに生活している方々の死亡について（発見が遅れて）いろいろ考えさせられる事がありますね。言うは易いですが、各関係者のネットワークがもう少しあればと思う事もあります。むずかしいこととは思いますが。

森兼 特に心に残ったエピソードはありま

せんか。

坂井 天六のガス爆発事件や千日前のデパートの火災事件は強烈ですね。いろいろありすぎて、ひと口には言えませぬね。

森兼 保健所の業務と監察医業務とのかかわりはありますか。

坂井 おおいにありますね、先ほど述べました一人暮らしの方々の死亡をとってみまして、保健・医療・福祉の連携の問題に関係してきます。また乳幼児の事故死も保護者がもう少し気をつけたら防げるわけですからね。1歳から2歳までは浴槽内転落による溺死や窓やベランダ等からの転落死、3歳位になると川や池での溺死が多いですね。保健婦さんが家庭訪問したときには部屋の家具の置き場等、環境の面にも気を配ってほしいと思います。子供は今日できないことでも明日はできますからね。思いがけないことを子供をしますね。また、シンナー吸引による死亡に立ち会う機会もあります。ちょっとの好奇心で未来と希望のある若い人生を断ちきった事例をみるたびに、何とかならなかったかと無念さのみが残ります。

森兼 ところで話は変わりますが、先生は高知県のご出身ですのではお酒は強いと思いますが。

坂井 嫌いではないですね。最近は量も減ってきましたが、なにせ『公衆衛生は夜前にすむ』というのが私のモットーですので。

森兼 最後に公衆衛生活動をふりかえてのご感想は。

坂井 変なことから公衆衛生に関係することになりましたが、今振り返ってみますと最初の吹田保健所での出会が大きな要因になったと思います。最初の職場が吹田保健所でなかったら、今頃は何をしているのでしょうか、最初の職場との出会が大切ですね。

森兼 どうもありがとうございました。

【 インタビュアー
大阪市此花保健所保健婦・森兼美智代 】